◆　一版多色刷り版画

★一版多色刷りの良さ

・線彫り中心なので、彫る技術があまり必要とせず楽しく活動できます。

・黒版画と違い、作業の進みが一目でわかるので、意欲的に取り組めます。

・形をとりにくい子どもも、色を入れることでそれらしい作品になります。

★注意！

・色入れ作業に時間がかかるため、2 枚以上つくるのは、大変です。

◎高学年の人物の実践から

★はじめに

・下絵　紙版画や木版画と同様。
児童の発達段階に応じて指導します。

・版作り　黒い画用紙に印刷するので、彫ったところが黒くなります。
だから、基本的に線彫りで。
木版画の導入として中学年で体験させると彫刻刀になれることができます。。

・印刷　絵の具を使います。
画用紙の上部と版の上部をガムテープで固定し、ずれがないようにします。
絵の具を版に少し入れては刷り、また少し絵の具を入れては刷ります。
絵の具は、水を少なめにしてマヨネーズぐらいの濃さにします。
不透明感を出すために**白**を加えます。
（絵の具そのままの色だと黒の画用紙が透けてしまう。）

★ポイント（より迫力のある作品にするために）

黒の画用紙について

黒以外にも、青や紺、茶系も考えられるが、黒が一番色の発色が良い。
題材や描きたいものによって版紙の色を選ぶ必要があるが、よほどのことがない限り、
黒画用紙が一番です。

※色の入れ方について

1、色は、顔から

まず、子どもに興味もたせるために顔から色を入れていきます。
少し色をいれただけで顔の表情が浮かび上がってくるので、熱心に取り組めます。

2、一版多色刷りでも立体感は出せる！

色を入れるときは、最初薄い色をいれ、強調したい部分を 2 回、3 回と重ねるようにすると
立体感が出てきます。
このとき、同じ色を重ねるのでなく、色を少し変えて重ねるとより効果的です。
また、しわの部分や重なり合う部分の山の部分を多く重ねることによって立体感が出てきます。
（白を多くするとよいです。白は、ちょっと多いかな、と思うくらいでちょうどよいです。）

3、筆の跡にも気を使って

木版画のとき、彫る方向に気をつけるのと同じように、筆の方向にも気をつけます。
（結構筆の跡が残ります。これを生かすのも効果的です。）

一版多色刷り版画　シナリオ

Ⅰ　構図を考える

酒井式などでダイナミックに描かせましょう。（※）
版画なので、数枚描いたものを切りあわせるのもよいです。
※下絵は、大切です。

Ⅱ　版をつくる

下絵を薄い洗剤につけ、板の上に重ね、プレス機に入れて版に下絵を写します。
彫りは、線彫りが主です。（木版画の導入として中学年の段階で体験させておくと彫刻刀になれることができます。）
角刀や切り出しの使い方について指導するのによい機会です。

Ⅲ　刷る準備をする

木版よりひとまわり大きい画用紙（黒がお勧め）の上部を木版に固定します。
ガムテープで貼ると、しっかり固定されるので、刷りでのズレがないっです。

Ⅳ　顔を刷る

先ず、子ども達に興味を持たせるために顔から色を入れていきます。
少し色を入れただけで顔の表情が浮かび上がってきます。

絵の具は、マヨネーズくらいの濃さにします。 色をつくるときは、必ず白を混ぜること。

絵の具そのままの色では、黒の画用紙の色が透けてしまいます。
白をいれることによって、絵の具が不透明になり、黒画用紙の上でもきれいに色が出ます。

タッチの方向を考えなさい。 ほっぺたは、まあるいよ、といいながら色をいれなさい。

版画のとき、彫る方向に気をつけるのとおなじように、筆の方向にも気をつけるように指導します。
結構筆の跡が残るので、これを効果的にいかしましょう。

V　　服を刷る

まず、薄い色で刷りなさい。 立体感をだしたいときは、2回、3回と重ねて刷りなさい

服に色をいれるときは、最初にまず薄い色を入れて、一回刷ります。
強調したい部分は、2回、3回と重ねるようにすると立体感が出ます。
このとき、同じ色をかさねるのではなく、色を少し変えて重ねるようにします。
　（白を多くしていくとより立体感が出ます。）

服のしわの部分は、白を多く入れた色で重ね刷りをしなさい。

しわの部分や重なり合う部分の山の部分を多く重ねることによって立体感が強調されます。
白を多くした色でするとよいです。白はちょっと多いかな、と思うくらいでちょうどよいです。

Ⅵ　　背景を刷る

背景は、いりません。 どうしてもいれたいものがあったら、薄い色で刷りなさい。

一版多色版画では、あまり多くの物を刷ると、ごちゃごちゃしてしまいます。
柱になる物以外は刷らないくらいでちょうどよいです。
どうしても入れたいものがあったら、薄い色で刷るようにします。

Ⅶ　　仕上げる

版から黒画用紙をはがします。（切らないように気をつけて９
黒画用紙のまわりを裁断機で切り落とし、できあがりです。
一版多色版画は、たくさんすれないので、写真やカラーコピーを撮っておくとよいです。
　（刷っても２枚が限度でしょう。）

★作品例　（新潟県立飛渡第二小学校のみなさんの作品）

6年生の作品

おばあちゃんが、わらじをあんでいるところです。やわらかく立体感がよく出ています。

わらじ色の服が黒い紙に映えています。

火おこしをしているところです。目の表情がすばらしです。けむりは、別の版をつくり刷ったそうです。

5年生の作品

三人もの人を入れると多色は、ごちゃごちゃしやすいが、色をうまく分けて表現しています。

しわの山に白を入れて立体感をうまく出しています。

（※）色を入れると良くなるとは言え、やはり下書きは、出来上がりに大きく影響します。小さくこじんまりとするのでなく、大きくダイナミックにかかせるためには、色々な方法が実践されています。そのひとつが、酒井式です。インターネットで酒井式版画で調べるとたくさんでています。

人物の顔を描くとき、顔の輪郭から描くのではなくて、パーツ（目、口、鼻・・・）から描かせると、ダイナミックになります。また、横笛を吹く人物の場合、横笛を先ず描き次に口→鼻→目→眉というふうに描き広げていくなどです。

◎　シクラメン　（中学年からできます。）

★下絵は、花びらのつきかたを理解せることや花や葉の重なりを描かせることが大切。
そのためには、学年当初から、見通しを持って指導していくことが必要です。
（立体感や重なりを描くことを、継続して取り組んでいくこと。）

花びらのつき方

花の重なりを円で表しておく。

鉛筆ではなびらを描きこんでいく

大きく描いた方が、彫りやすく彩色し易い。

彫刻刀は、一応鉛筆持ちで。反対の手は、絶対彫刻刀の前に持ってこないこと。

・色は、マヨネーズ位の濃さで。少しずつ色を置いていき、其の都度刷っていく。
・色をのせ過ぎたり、水が多いと線彫りの線から、外側へ、はみ出るので要注意！

★　私もシクラメンを彫ってみました。
家にあるシクラメン

・直接鉛筆で下絵を描き、サインペンでなぞりました。
・一番手前にある葉っぱから描きたしていきました。
・植物が成長していく順に下から茎を伸ばし、それから、花を咲かせました。

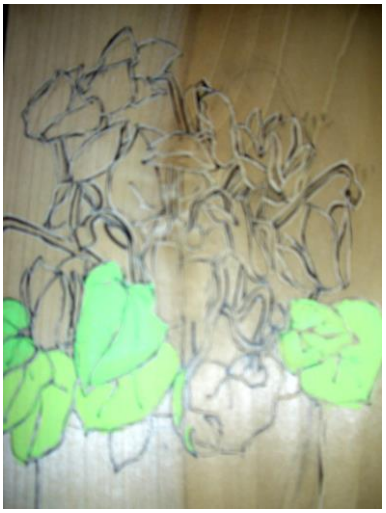
・線彫りで、彫っていく。三角刀を使った。

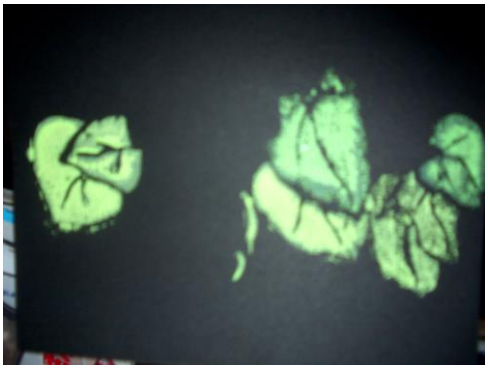
・黒が用紙をガムテープでしっかりととめる。

開いたところ

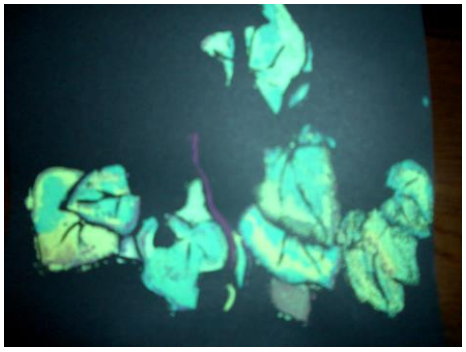
・　葉に白を混ぜた薄い黄緑を先におき、少しずつ刷る。マヨネーズのかたさで。

版に色をおいた





・少しずつ濃い色を重ねていく。



・茎に薄い色を入れる。

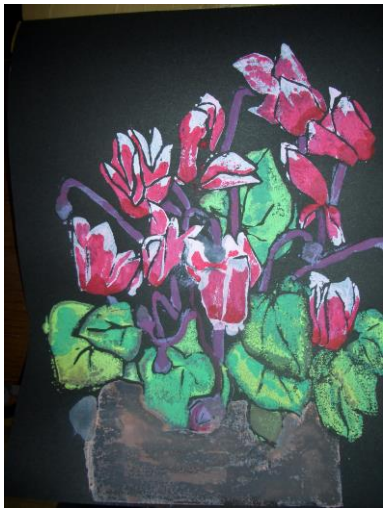
濃い色を重ねる。

水が多めで黒い線
がつぶれ失敗！

・茎に色を入れたところまでの版

・花に薄い色を入れた。

濃い色を重ねていく。

濃い色を重ねることでカバーできる。

・ 植木鉢を入れて出来上がり。
・ 植木鉢無い方が良かったかも。